

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Linkerアミ			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～	2024年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の質の高さ	保護者様の心配事やお子様の問題行動や発達に関わる問題等に対して、間接的な対応ではなく、直接的な対応を行っている。発達水準に合わせて集団を形成し、重度、軽度関係なく、1人ひとりのお子様が「今」持っている能力を最大限に引き出し、活用できるように支援している。	工夫している取り組みには、必ず専門的な観察、評価、それに基づく一人一人に合わせた個別の対応が必要になる。その質を高めるためには、「療育全般の学問としての学び」と「『人を知る』ための他分野からの学び」が必要なので、スタッフ自身が色んなアンテナを張りながら、社会参加できるようにしている。
2	未就学の時から18歳まで、連続した計画的な支援を行う。	当事業所は短期的な支援ではなく、長期的な支援を念頭に置きながらお子様に関わらせていただいている。意図的な集団を作り、何らかの理由で幼稚園や学校で経験できなかった事を当事業所で経験し、そこから生まれる喜怒哀楽を感じながら、その時にできる適切な行動を学べるように支援している。	より広く、より深く、その時々の子どもの様子を理解できるように幼稚園や学校の訪問支援を強化し、日常的な連携を今まで以上に深めて、社会参加に繋げていければと思っている。
3	軽度、重度関係なく、卒業後（社会に出る時）の支援まで考えている。	幼少期から社会に出た時の事を考え、「幼少期にできること」、「幼少期にしておくべきこと」を考え、丁寧に支援している。ただただ小集団を作るのではなく、コミュニケーションとはなにか、どのようにすれば自発的に集団を形成するのかを考えて、自由の中で着実に成長していけるようにしている。	開所12年目になるので、数年後には5人前後の卒業生が毎年出てくる。幼少期から保護者様と協力し、丁寧に育てて来た子どもが社会で崩れないように、サポートできる仕組みを準備中。また児童同士から集まれる場所作りも計画。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	西宮市全域（北部を除く）に送迎に出ているので、送迎希望者が多く、ご希望に沿えない事がある。	自動車の台数が制限されている中、運転できるスタッフの数も限られている。送迎を希望される保護者様が年々増えている印象があるため、ご見学時の段階で送迎の状況を確認し、送迎無理な場合のお申し込みの有無を確認しておく。	送迎担当のドライバーさんは在籍しているが、その数を増やす事を検討したり、運転が出来るスタッフを増やすための求人をしっかり行っていく。
2	療育をメインにしている多機能型なので、事務に回す時間が少ない。	児童が来所していない時間が限られているため、事務に回す時間の計画性が必要になる。なるべく残業ではなく、業務時間内に作成しないといけない書類や記録は完成できるようにする。	システムを上手く活用し、タイムパフォーマンスの悪い業務をみつめる。その場合では、本当に改善しないといけないかの検証の余地あり。
3	多機能型なので、午前（9時から13時、午後15時から18時）の療育となっており、長期休みもこの時間は変わらないので、一日利用を希望される保護者様にはご不便をおかけしている。	午前中のお子様は長期休暇でも普段と変わらないが、就学児になると午前中は家庭で過ごす事が多く、場合によっては長期休暇の過ごし方をアドバイスすることもある。	短時間でも質の高い療育を提供することにより、「毎週しっかり通わせたい」と思っていたらいいようなサービスを提供していく。